

日本カリキュラム学会

第30回（京都大学）大会プログラム

2019年6月22日（土）～6月23日（日）

後援

京都府教育委員会・京都市教育委員会
京都大学大学院教育学研究科
教育実践コラボレーション・センターE. FORUM

第30回大会実行委員会

〒606-8501 京都市左京区吉田本町
京都大学大学院教育学研究科
（委員長 西岡加名恵）
E-mail : jscs30kyoto.u@gmail.com
学会HP : <http://jscs.b.la9.jp/>

日本カリキュラム学会

第 30 回（京都大学）大会プログラム

◆ 前 日 2019年6月21日（金） 16:00～18:00 理事会
 京都大学吉田キャンパス 本部構内 教育学部本館1階 第1会議室

◆ 第1日 2019年6月22日（土）
 受付 9:30～ 京都大学吉田キャンパス 吉田南総合館北棟1階 共北12講義室

10:00	課題研究Ⅰ 実践をつくるカリキュラム・ マネジメント （共北32講義室）	課題研究Ⅱ 考えることを考える — 哲学する教育の可能性 — （共北26講義室）
12:00	昼食	
13:00	自由研究発表Ⅰ	
15:00	移動	
15:20	基調講演 カリキュラムを表現するものとしての評価課題 （国際高等教育院棟3階・講義室31）	
16:10	休憩	
16:20	公開シンポジウム 評価を活かしてカリキュラムをデザインする （国際高等教育院棟3階・講義室31）	
18:20	移動	
18:40	研究交流会（カンフォーラ）	
20:30		

◆ 第2日 2019年6月23日（日）
 受付 9:00～ 京都大学吉田キャンパス 吉田南総合館北棟1階 共北12講義室

9:30	自由研究発表Ⅱ	
11:30	移動	
11:50	総会（共北26講義室） ・ 昼食	
12:50	移動	
13:00	課題研究Ⅲ 教科横断型学習の 具体像と可能性を検討する （共北32講義室）	課題研究Ⅳ カリキュラムの「不易と流行」を語る — 学習指導要領とカリキュラム研究 — （共北26講義室）
15:00	休憩	
15:15	自主企画セッション	
16:45		

大会参加要領

1. 会場

京都大学吉田キャンパス吉田南構内（京都市左京区吉田本町）
アクセスについては、下記のサイトをご参照ください。

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r_ys.html

2. 受付

京都大学吉田キャンパス 吉田南総合館北棟 1階 共北 12 講義室
(2日間とも同じ場所です)。

3. 大会参加費

- ・次の通りです。会員サービス向上のため、昨年同様、正会員・学生会員の大会参加費を安く設定しました。一人でも多くの参加をお待ちしております。当日、受付にてお支払い願います。
- ・大会第1日目（6月22日（土））の15時20分から予定されております基調講演と公開シンポジウムにつきましては、どなたでも無料で参加いただけます。この機会にぜひご参加ください。

大会参加費（『発表要旨集録』代金を含む）	正会員	3,000円
	学生会員	2,000円
	臨時会員	4,000円

4. 昼食

大学構内の生協食堂「カフェテリアルネ」（営業時間：土曜日 11：00～19：30、
日曜日 11：00～14：00）や大学周辺の飲食店・コンビニ等をご利用ください。

5. 研究交流会

カフェレストラン「カンフォーラ」（京都大学吉田キャンパス本部構内・正門をくぐって
すぐ左手の建物）にて行います。当日、上記大会受付にて大会参加費と合わせてお支払い
をお願いいたします。皆様の積極的な参加をお待ちしています。

研究交流会参加費 4,000円

6. 宿泊

恐縮ですが、宿泊の斡旋はいたしません。ご自身で手配願います。近年、京都市内の宿泊
予約がとくに難しくなっています。早めのご予約をお勧めいたします。

7. 事前受付

大会参加については、学会ウェブサイトの第30回大会「事前参加申込」ボタンからお申
し込みください（<http://jscs.b.la9.jp/meeting/2019information.html>）。事前参加申込の締
切は、6月3日（月）です。なお、参加費の事前振り込みは行いません。当日、参加費
を申し受けます。

8. 問い合わせ先（大会事務局）

日本カリキュラム学会 第30回（京都大学）大会実行委員会
住所：〒606-8501 京都市左京区吉田本町
京都大学大学院教育学研究科 西岡加名恵研究室
E-mail： jscs30kyoto.u@gmail.com

※ ご不明な点等につきましては、E-mailにて実行委員会までお問い合わせ願います。

自由研究発表要領

1. 発表時間

自由研究発表の時間は、原則として次の通りです。

個人研究発表 発表 20 分 質疑討議 5 分 (計 25 分)
共同研究発表 発表 40 分 質疑討議 10 分 (計 50 分)

2. 発表資料

発表資料等は、発表者各自で配付分(70部程度)をご用意のうえ、当日の発表開始10分前までに各部屋の係員に提出してください。大会事務局では、追加の印刷は出来かねますのでご了承ください。また、事前に送付することはお控えください。

3. 発表用機材

自由研究発表のお申し込み時にご連絡をいただいた機材に限り、分科会会場にご用意いたします。機材を使用する予定の発表者は、分科会開始前に各自で事前に動作確認を行ってください。なお、パソコンならびに接続ケーブルなどは各自でご用意願います。

4. 発表中止の場合

発表を取りやめる場合は、必ず事前に大会実行委員会まで E-mail にてご連絡ください。なお、発表中止にともなう発表時刻の繰り上げは行いません。

自主企画セッション要領

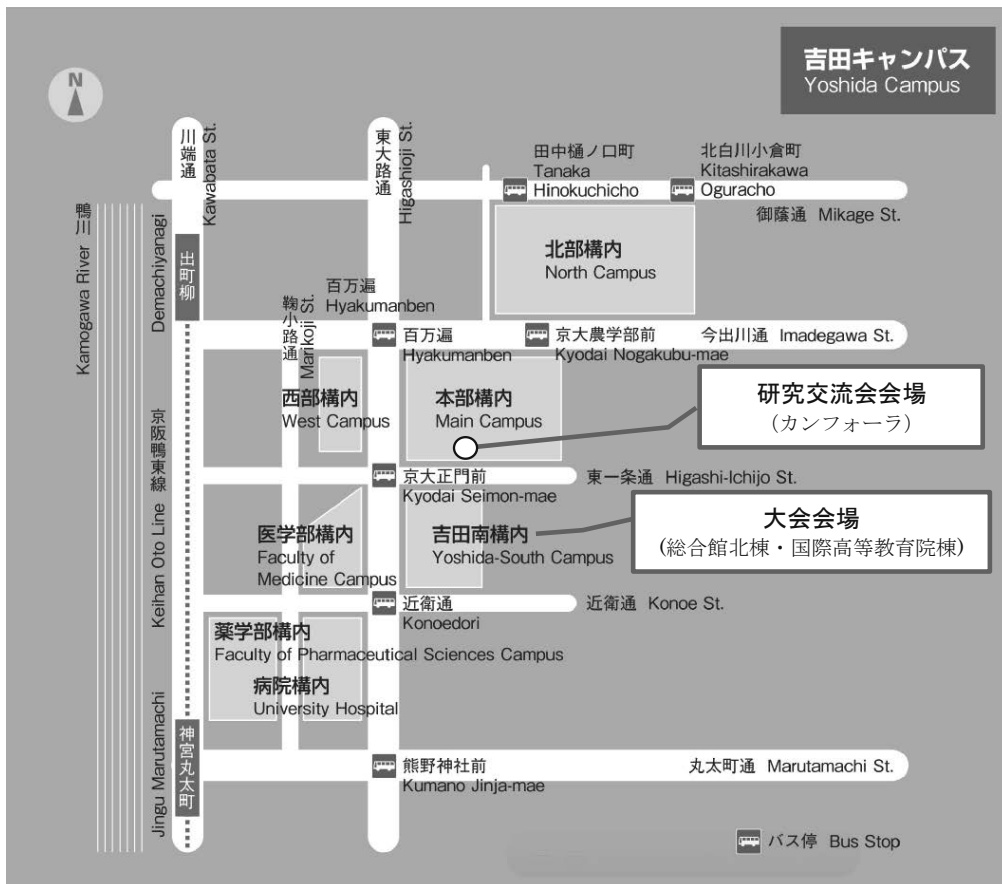
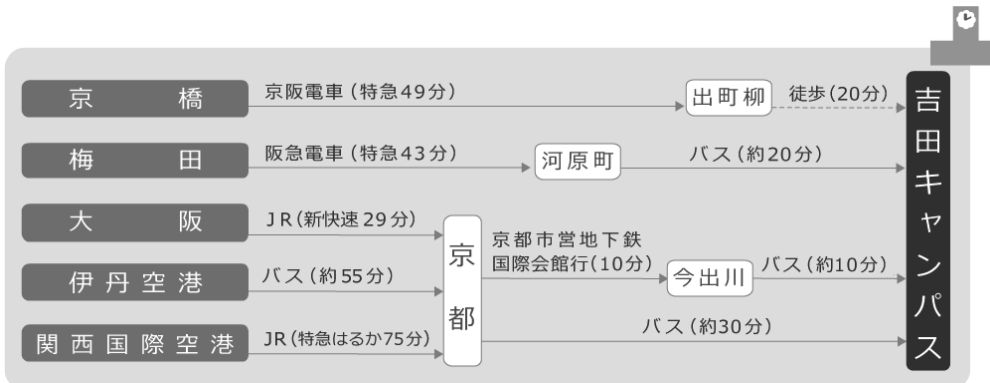
1. 発表資料

発表資料等は、発表者各自で配付分(70部程度)をご用意のうえ、当日各会場にて企画者にご配付ください(係員はおりません)。大会事務局では、追加の印刷は出来かねますのでご了承ください。また、事前に送付することはお控えください。

2. 発表用機材

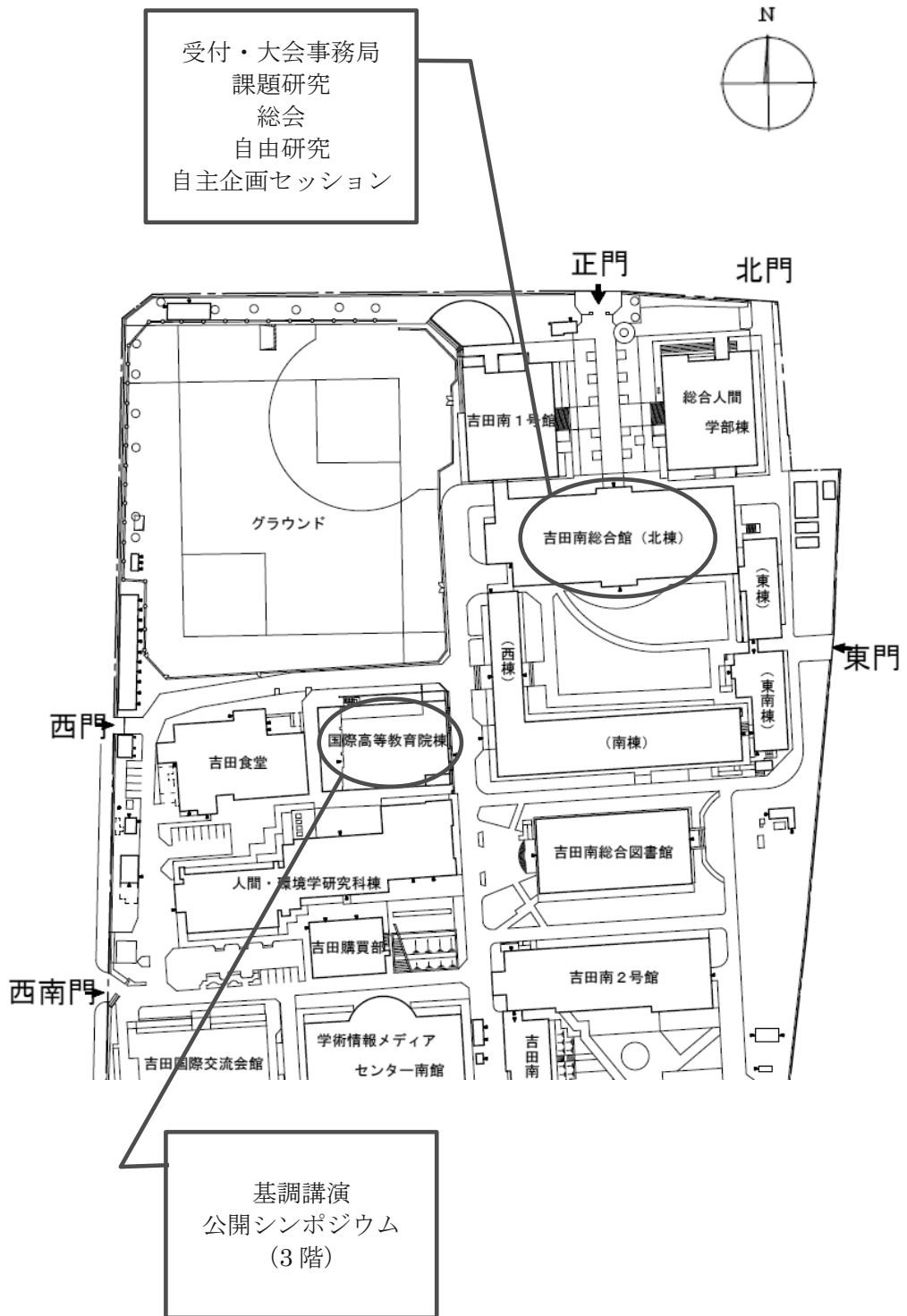
機材を使用する予定の発表者は、開始前に各自で事前に動作確認を行ってください。なお、パソコンならびに接続ケーブルなどは各自でご用意願います。

京都大学吉田キャンパスへのアクセスと略図



バスで吉田南構内へお越しの場合は「京大正門前」バス停が便利です。

吉田南構内 略図

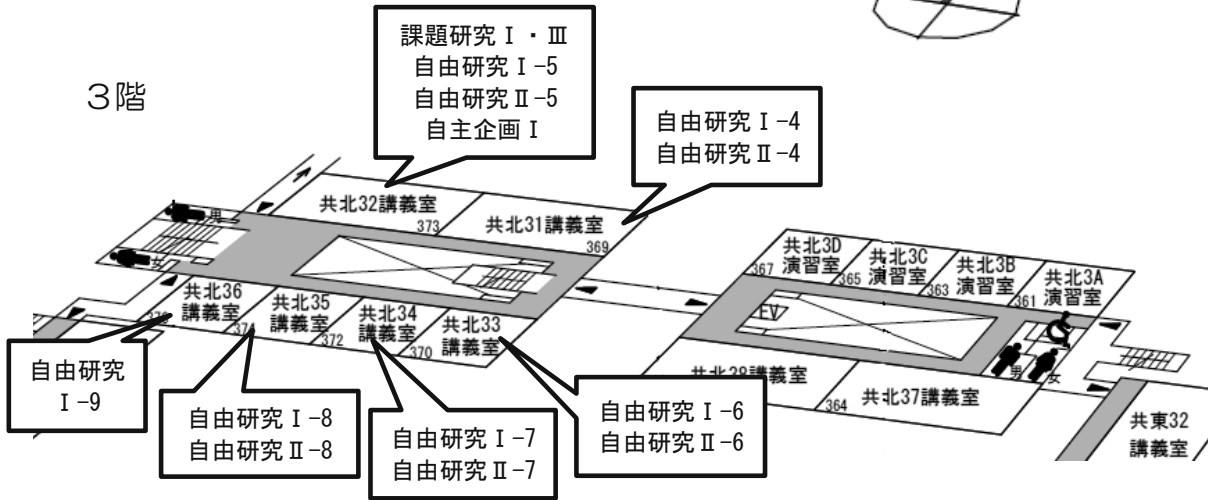


発表会場案内

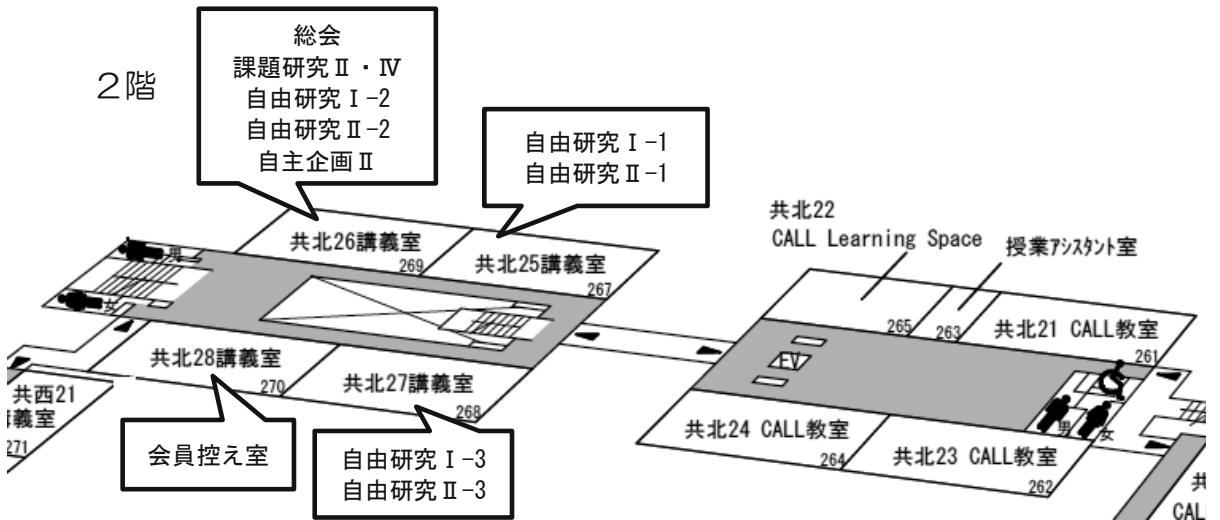
吉田南総合館北棟



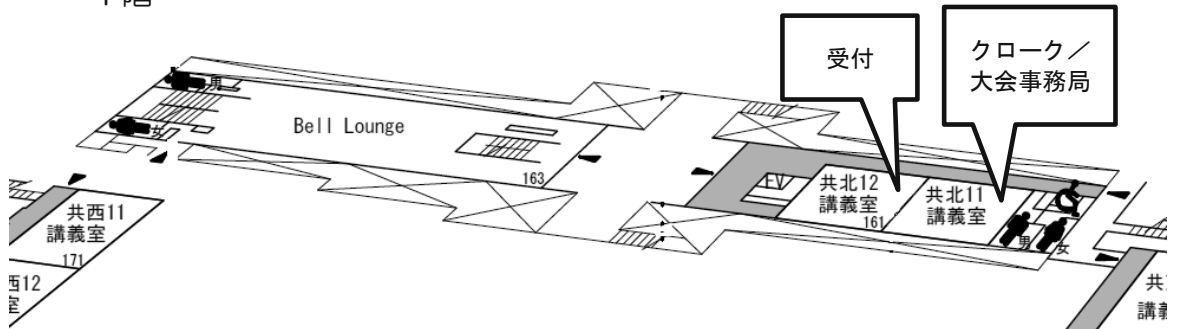
3階



2階

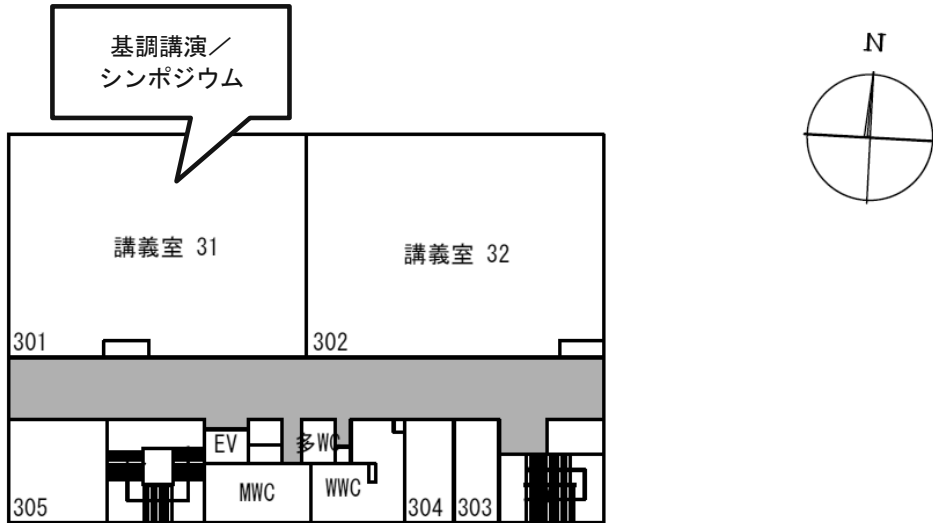


1階

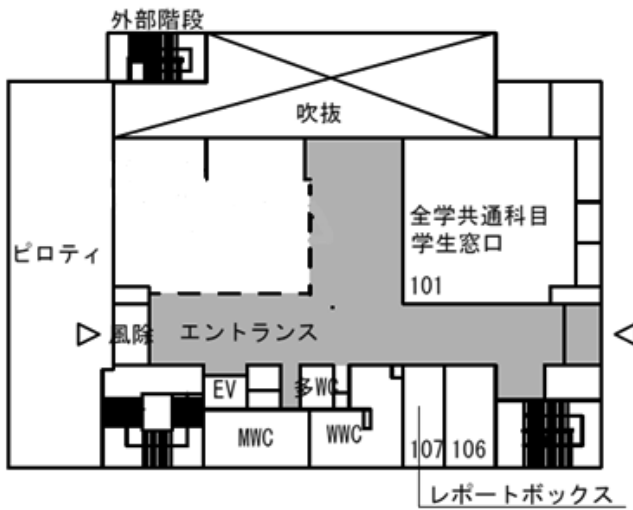


国際高等教育院棟

3階



1階



第1日（6月22日）10:00～12:00

課題研究 I

実践をつくるカリキュラム・マネジメント

共北 32 講義室

カリキュラム・マネジメントについて、本学会においては、これまで10年以上にわたり、研修プログラムの開発や評価等を主なテーマにしながら課題研究やセミナー等で取り上げてきた。また、自由研究発表でも、数々の研究や実践が紹介されている。こうした蓄積を背景に、教育行政でも学習指導要領にカリキュラム・マネジメントが明示された。各学校での理解と取組の推進が求められる時期に当たり、カリキュラム・マネジメントの在り方について引き続き追究していく必要がある。

課題研究 I では、昨年度、「カリキュラムの評価とマネジメントをめぐって—『効果検証』を中心に—」をテーマとして、プログラム評価研究を含め、カリキュラムの効果検証をめぐる理論と実践について検討した。本年度はこれを発展させ学校現場における教育の質的な改善に目を向けて、「実践をつくるカリキュラム・マネジメント」をテーマとする。各学校においては、教科等横断的な視点や学校内外の資源の活用も含め、どのように教育実践の過程や結果を見とり、そこからどのように改善の道筋を見出しより質の高い実践を創造していくことができるのか。こうした問いを中心に、カリキュラム・マネジメントが成立している姿や求められる支援の在り方を探り、今後の研究と実践の進展につなげたい。

<発表者>

- ・ よりよい実践をつくる校長の立場から
長谷博文（紋別市立潮見小学校、
前・北海道斜里町立知床ウトロ学校）
- ・ 学校を支援する教育委員会の立場から
石黒和仁（弥彦村立弥彦小学校、
前・上越市教育委員会）
- ・ 研究を進め学校や教育委員会を支援する立場から
田村知子（大阪教育大学）

<司会・コーディネーター>

- 吉富芳正（明星大学）
- 田中統治（放送大学）

第1日（6月22日）10:00～12:00

課題研究Ⅱ

考えることを考える－哲学する教育の可能性－

共北 26 講義室

哲学教育が注目を集めて久しい。

その背景には、先の見えない時代に生きる私たちの、世界把握の希求の表れとしての哲学への関心の高まりがあるかもしれない。しかし、そのほかに、考える習慣や能力はもちろん、知識についてもそれを思考と結びつけて獲得させることを目指すとき、広い意味での哲学することが持つ意義が認識されるのは、むしろ当然と言えよう。

考えるという行為に対しては多様なアプローチが存在することから、世界各地で様々な形の、哲学の、あるいは哲学的な教育が推進されてきた。この課題研究では、そのうちフランスのバカロレアにおける哲学、国際バカロレアの知の理論、そしてアメリカを中心とする子どものための哲学の例を取り上げる。それらの内容と目標、さらにはその背景のあいだに見られる共通性と差異を確認することにより、哲学教育の実践はもちろん、哲学を謳わない教育活動にも有益な認識が得られるものと期待される。

<発表者>

- ・「型」を身につける哲学教育
－フランス・バカロレア哲学試験をめぐる誤解と実像－
坂本尚志（京都薬科大学）
- ・国際バカロレアの<知の理論>が目指すもの
渡邊雅子（名古屋大学）
- ・アメリカの哲学教育が日本に示唆すること
－Philosophy for Children を中心に－
福井駿（鹿児島大学）

<司会・コーディネーター>

浅沼茂（立正大学）
近藤孝弘（早稲田大学）

第1日（6月22日）13:00～15:00

司会は五十音順

自由研究 I - 1

共北 25 講義室

司会 上地完治（琉球大学）
長尾彰夫（元・大阪教育大学）

- 13:00 学校教育における主体的な学びについての検討
ー脱中心化としての学びへの転換ー
田本正一（山口大学）
- 13:25 学校での批判的教育学実践への成人教育理論の示唆
ーピーター・メイヨアの成人教育理論を手がかりにー
植松千喜（東京大学大学院）
- 13:50 道德学習の実存論的検討ー世界内存在の熟達と決断ー
佐長健司（佐賀大学）
- 14:15 新道德教育のカリキュラム：差異化と合意形成の意義
浅沼茂（立正大学）

全体討議（14:40～15:00）

自由研究 I - 2

共北 26 講義室

司会 磯田文雄（名古屋大学）
川地亜弥子（神戸大学）

- 13:00 胡適と国語教育改革
ー中国近代における「国語科」成立の歴史的位相ー
山下大喜（名古屋大学大学院）
- 13:25 上海カリキュラムの全体構造の特徴に関する研究
ーA区の小学校のカリキュラムデザインを中心にー
野澤有希（上越教育大学）
- 13:50 図形の学年配当ー東アジアの教育課程の比較ー
○張思瑤（国士舘大学大学院）
正田良（国士舘大学）
- 14:15 インドネシアの高等学校におけるグローバル・シティズンシップ
教育
中矢礼美（広島大学）

全体討議（14:40～15:00）

第1日（6月22日）13:00～15:00

司会は五十音順

自由研究 I - 3

共北 27 講義室

司会 遠座知恵（東京学芸大学）
富士原紀絵（お茶の水大学）

- 13:00 池袋児童の村小学校における学校経営構想
ー教師の成長を企図した実験の意味ー
香山太輝（東京学芸大学大学院）
- 13:25 大正期の岡崎師範学校附属小学校におけるカリキュラム構成論の
形成ー特設学級における実践的研究の到達点ー
塚原健太（帝京大学）
- 13:50 大正新教育期富士小学校のカリキュラム改革と学校経営
ー公立小学校長のリーダーシップと教師の協同ー
橋本美保（東京学芸大学）
- 14:15 戦後社会科川口プラン創設の陰の恩人
ーGHQ ノッスと高石幸三郎を中心にー(中間報告)
中山正則（放送大学大学院）
- 全体討議（14:40～15:00）

自由研究 I - 4

共北 31 講義室

司会 三石初雄（元・東京学芸大学）
山口満（関西外国語大学）

- 13:00 新学習指導要領に対応した評価のあり方
～プログレスカードと評価課題の工夫を通して～
上村慎吾（新潟大学教育学部附属新潟中学校）
- 13:25 国語科における「深い学び」とパフォーマンス課題・評価
ー「見方・考え方」と価値ある問いー
佐藤洋一（名古屋学芸大学）
- 13:50 OECD-CERI「カリキュラム開発」プロジェクトにおける「行
動目標」「教育評価に対する古典的アプローチ」批判の諸相
八田幸恵（大阪教育大学）
- 14:15 小中一貫教育の取組の中での子供と教師の主体性（Agency）に
関する研究
ーA市における小中一貫教育のカリキュラム評価の結果からー
小柳和喜雄（奈良教育大学）
- 全体討議（14:40～15:00）

第1日（6月22日）13:00～15:00

司会は五十音順

自由研究 I - 5

共北 32 講義室

司会 赤沢早人（奈良教育大学）
高橋亜希子（南山大学）

- 13:00 子どもの主体的な経済参加をめざす小学校家庭科授業研究
ー消費者教育の視点を用いたカリキュラム開発を通してー
吉津美沙紀（愛知教育大学大学院）
- 13:25 深い学びを実現するペア学習の実践的提案
福本義久（四天王寺大学）
- 13:50 他者を視点にしたキャリア教育のカリキュラムデザイン
胡田裕教（名古屋大学大学院）
- 14:15 キャリア自己概念の視点における教員の自己成長に関する具体的
考察
川上知子（常葉大学）

全体討議（14:40～15:00）

自由研究 I - 6

共北 33 講義室

司会 根津朋実（筑波大学）
藤川聡（北海道教育大学）

- 13:00 中学英語指導法におけるカリキュラム・マネジメント研究
有賀友美（名古屋市立牧の池中学校）
- 13:25 外国につながりのある子が在籍する教室における「文化的に応答
した指導」(culturally responsive teaching) の考え方に基づいた
音楽授業の可能性ー多文化音楽教育からの転換ー
磯田三津子（埼玉大学）
- 13:50 留学プログラムのカリキュラム・マネジメント
○馬場洸志（追手門学院大学）
島田信孝（追手門学院大学）
向條美保子（追手門学院大学）
田上正範（追手門学院大学）
清水栄子（追手門学院大学）

全体討議（14:40～15:00）

第1日(6月22日) 13:00~15:00

司会は五十音順

自由研究 I - 7

共北 34 講義室

司会 工藤文三(浦和大学)
田村知子(大阪教育大学)

- 13:00 高等学校普通科における教育課程編成上の課題
ー新学習指導要領実施に向けてー
大西俊弘(龍谷大学)
- 13:25 アクティブ・ラーニングとカリキュラム・マネジメントを両輪とした学校教育の推進~成功循環モデルに着目して~
内田靖(明星大学大学院)
- 13:50 学校を基盤としたカリキュラム開発に資する学校長の役割と学びの実態ーある地域の幼稚園小中高等学校のリーダーに対する質問紙調査の結果からー
○木原俊行(大阪教育大学)
島田希(大阪市立大学)
- 14:15 学校を基盤としたカリキュラム開発における学校長のリーダーシップの実態
ー英国の小学校長を対象とした事例研究を通じてー
○島田希(大阪市立大学)
木原俊行(大阪教育大学)

全体討議(14:40~15:00)

自由研究 I - 8

共北 35 講義室

司会 樋口直宏(筑波大学)
村川雅弘(甲南女子大学)

- 13:00 カリキュラム・マネジメントは実践されるか
ー学校の小規模校化を視点にー
内田卓雄(元・沼津市教職員研修センター)
- 13:25 新領域「創造表現活動」の成果と課題
小野智史(香川大学教育学部附属高松中学校)
- 13:50 メタ認知能力を育む ESD カリキュラム開発
ー21世紀を主体的に生き抜く児童の育成ー
石川敬祐(愛知教育大学)
- 14:15 算数・数学の授業から小中一貫・連携を考える
井上正允(元・佐賀大学文化教育学部)

全体討議(14:40~15:00)

第1日（6月22日）13:00～15:00

司会は五十音順

自由研究 I - 9

共北 36 講義室

司会 子安潤（中部大学）
森久佳（大阪市立大学）

- 13:00 授業研究事後検討会の手法 Round Study の検討
原田三朗（四天王寺大学）
- 13:25 教職経験のない学卒院生と現職院生が授業を相互参観することが
学卒院生の授業力に及ぼす効果に関する事例的研究
杉山立（愛知教育大学）
- 13:50 教職大学院における教育課程・カリキュラムに関する授業のあり
方ー全国教職大学院のシラバスの内容分析からー
園部友里恵（三重大学）
- 14:15 開放制における教員養成と教職大学院とを接続させるカリキュラ
ムの一提案
○宮下治（帝京平成大学）
倉本哲男（愛知教育大学）

全体討議（14:40～15:00）

第1日（6月22日）15:20～16:10

基調講演

カリキュラムを表現するものとしての評価課題

国際高等教育院棟3階・講義室31

<登壇者>

D. ロイス・サドラー教授

<要旨>

カリキュラム文書は、カリキュラムの内容についての意図や願いを明示するものであり、大きくは教科の主題や教材に集中する。しかし、願いと実際に起こることは、しばしば別のことである。

教えられることは、事実・関係・概念を記憶することに限定されるべきでない。最も重要なのは、論点に取り組み、問題を解決し、学習者にとっての新たな問いに答えていくために、そのような情報をどのように駆使することができるのかということである。

後者に対してどれほど真剣であるかの最良の指針は、私たちが学習者に課す評価課題の構造と、それに対する学習者の応答の質をどのように判断するのか、ということによって示される。私たちが高次の認知過程を求めていながら、記憶している情報の再生という応答を嬉々として受け入れてしまうことは、教育の過程全体をたちまち打ち砕くことになる。高次の認知能力は、私たちの人生にまで生きる学びであり、そして私たちにとっての新しい知識、さらにはまだ生み出されていなかったり知られていなかったりするような未来の知識に、適用されていくものなのである。

<登壇者のプロフィール>

D. ロイス・サドラー氏は、教育評価研究者であり、クイーンズランド大学（オーストラリア）の「教授・学習イノベーション研究所」名誉教授である。彼の教育や研究における関心は、学習の形成的・総括的アセスメントにある。近年の業績や著作物は高等教育におけるアセスメントに関連した論点に焦点を合わせており、特に成績付け、学業達成スタンダード、ならびに学習や専門的コンピテンスを改善するうえでのアセスメントの役割を扱っている。彼は、グリフィス大学の名誉教授（高等教育）でもある。

<司会・コーディネーター>

西岡加名恵（京都大学）

<プログラム原稿翻訳>

石田智敬（京都大学大学院）

第 1 日 (6 月 22 日) 15:20~16:10

Keynote Lecture

Assessment Tasks as Curriculum Statements

国際高等教育院棟 3 階・講義室 31

< Speaker >

Professor D. Royce Sadler

< Abstract >

Curriculum documents set out aspirations and intentions about the content of the curriculum, concentrating heavily on topics and subject matter. Aspirations are one thing; what actually happens is often another.

What is taught should not be limited to memorizing facts, relationships and concepts but, most importantly, how to process such information to address an issue, solve a problem or answer some question that is new to the learner.

The best guide to how serious we are about the latter is expressed by the structure of assessment tasks we put to students, and how we judge the quality of their responses. If we ask for higher-order processes but then happily accept responses that are reproduced from memorized information, we subvert the whole educational process. The higher-order cognitive capabilities are the learnings we will carry forward into our lives, and will be applicable to knowledge that is new to us, and also to future knowledge not yet created or known.

< Profile of the speaker >

D. Royce Sadler is Senior Assessment Scholar and Honorary Professor in the Institute for Teaching and Learning Innovation at The University of Queensland. His teaching and research interests are in the formative and summative assessment of student learning. Current work and recent publications have focused on assessment-related issues in higher education, particularly grading, academic achievement standards and the role of assessment in improving learning and professional competence. He is also Professor Emeritus in Higher Education, Griffith University.

< Facilitator/Coordinator >

Kanae Nishioka (Kyoto University)

第1日(6月22日) 16:20~18:20

公開シンポジウム

評価を活かしてカリキュラムをデザインする

国際高等教育院棟3階・講義室31

2017・2018年改訂学習指導要領においては、「何を学ぶか」だけでなく「何ができるようになるか」も重視する、「資質・能力」ベースの改革が標榜されている。そうした改革の背景には、世界的に展開しているコンピテンシー・ベースの改革動向、および高次の思考の育ちを対象化するカリキュラム研究や教育評価研究等の成果の蓄積がある。これまで、タイラー原理、行動目標、マスタリー・ラーニングなど、「目標に準拠した評価」を強調することは、個別の要素的内容の機械的学習と点検作業に陥りがちだと批判されてきた。しかし、近年のカリキュラム研究や教育評価研究は、高次の思考力の育成につながる「目標に準拠した評価」のあり方を提起するものである。また、日本においても、教科学習や総合学習において、「目標に準拠した評価」を重視しつつ、探究的な学びも含めたカリキュラム改善を行う現場の取り組みも蓄積されてきている。本大会の基調講演で登壇されるサドラー教授は、スタンダード準拠評価の考え方など、まさに高次の思考力の育成を促す目標・評価関係を提起しておられる。本シンポジウムでは、そうした近年の教育評価研究、カリキュラム研究の到達点を確認するとともに、日本の教育現場のカリキュラム改善の取り組みも紹介しながら、高次の思考力を含む、「資質・能力」の育成を促しうる教育目標・評価のあり方について議論したい。

<登壇者>

- ・高次の思考力を育むカリキュラムと評価
ーポスト・ブルームの評価論の日本的展開ー 石井英真(京都大学)
- ・「学びの変革」を目指すカリキュラム
ーつないで活かす課題研究とパフォーマンス評価ー
小笠原成章(広島県立広島高等学校)

<指定討論者>

- ・教育評価研究の立場から D. Royce Sadler (University of Queensland)

<司会> 安藤輝次(関西大学) 松下佳代(京都大学)

<コーディネーター> 西岡加名恵(京都大学) 石井英真(京都大学)

第2日（6月23日）9:30～11:30

司会は五十音順

自由研究Ⅱ－1

共北25講義室

司会 近藤孝弘（早稲田大学）
的場正美（東海学園大学）

- 9:30 ドイツの教育目標と学習指導要領の関係性
坂野慎二（玉川大学）
- 9:55 ドイツ初等教育カリキュラムにおける「空間認識」の形成とその方法－事実教授の教科書および教師用指導書の分析から－
○阪上弘彬（兵庫教育大学）
○渡邊巧（広島大学）
○大坂遊（徳山大学）
- 10:45 欧州評議会における市民性育成のためのカリキュラム編成原理－価値を中心とした民主的文化のためのコンピテンシー参照枠に基づいて－
橋崎頼子（奈良教育大学）
川口広美（広島大学）

全体討議（11:10～11:30）

自由研究Ⅱ－2

共北26講義室

司会 豊田ひさき（朝日大学）
橋本美保（東京学芸大学）

- 9:30 東京女子高等師範学校附属小学校におけるカリキュラム評価－1920年代の教育測定研究を中心に－
遠座知恵（東京学芸大学）
- 9:55 樋口勘次郎「統合カリキュラム論」の再評価
深谷圭助（中部大学）
- 10:20 戦後新教育における健康教育実践の成立と頓挫
－東京都港区高輪台小学校に着目して－
有間梨絵（東京大学大学院）
- 10:45 「新教育誘導論」に立脚したカリキュラム編成方法の今日的な可能性
－福岡学芸大学附属小倉小学校『新しい教育課程』をもとに－
大村龍太郎（東京学芸大学）

全体討議（11:10～11:30）

第2日（6月23日）9:30～11:30

司会は五十音順

自由研究Ⅱ－3

共北 27 講義室

司会 遠藤貴広（福井大学）
中野和光（美作大学）

- 9：30 資質・能力を育成する社会科カリキュラムの開発
ーグローバル社会の形成者として必要な資質・能力を育成する
ためにー
服部太（広島大学附属小学校）
川村悠太（広島大学附属小学校）
- 9：55 英国イングランドにおける統合型教科「社会科」創設運動の教科
教育学的考察
ー1970年代から1980年代を主対象にー
志村喬（上越教育大学）
- 10：20 社会認識における包括的概念に依拠したカリキュラム・単元設計
の意義と課題
ー国際バカロレア前期中等教育プログラム(MYP)「個人と社会」
のテキスト分析と日本での授業実践事例検討を通してー
鋒山泰弘（追手門学院大学）
次橋秀樹（京都大学大学院）

全体討議（11:10～11:30）

自由研究Ⅱ－4

共北 31 講義室

司会 浅沼茂（東京学芸大学）
澤田稔（上智大学）

- 9：30 東井義雄の道德教育に関する一考察
齋藤義雄（東京家政学院大学）
- 9：55 道德科の年間指導計画を弾力的に取り扱うための OODA ループ
活用法
中野真悟（刈谷市立日高小学校）
- 10：20 ESD 構築に向けた命の道德カリキュラム開発研究
ー自己肯定感を高める道德カリキュラムづくりの考察ー
作田澄泰（早稲田大学教師教育研究所）
- 10：45 高等学校「倫理」カリキュラムに関する考察
堤文（佐賀県立佐賀西高等学校）

全体討議（11:10～11:30）

第2日(6月23日) 9:30~11:30

司会は五十音順

自由研究Ⅱ-5

共北32講義室

司会 倉本哲男(愛知教育大学)
吉富芳正(明星大学)

- 9:30 高等学校の教育課程編成に関する研究
- 専門教育を主とする教育課程の課題 -
鶴田百々(九州大学大学院)
- 9:55 職業教育カリキュラムにおける能力形成の課題
- スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール指定校の実績報告書の予備的分析 -
岡部善平(小樽商科大学)
- 10:20 多様な個に応じたキャリア・職業教育の設計と進路形成
- ドバイにおける国際バカロレアキャリア関連プログラムを事例として -
○御手洗明佳(淑徳大学)
○中島悠介(大阪大谷大学)
柳田雅明(青山学院大学)

全体討議(11:10~11:30)

自由研究Ⅱ-6

共北33講義室

司会 竹川慎哉(愛知教育大学)
田中統治(放送大学)

- 9:30 「生きる力」はキーコンピテンシーの先取りなのか
磯田文雄(名古屋大学)
- 9:55 「越境による共創」のカリキュラム開発に対する高等学校教員の意識と実態に関する予備的検討
○安藤福光(兵庫教育大学)
緩利誠(昭和女子大学)
- 10:20 研究開発学校におけるカリキュラム開発の経験
- 教師の professional capital 形成に注目して -
○矢野裕俊(武庫川女子大学) ○田村知子(大阪教育大学)
○森久佳(大阪市立大学) ○深見俊崇(島根大学)
○廣瀬真琴(鹿児島大学) 小柳和喜雄(奈良教育大学)
木原俊行(大阪教育大学)

全体討議(11:10~11:30)

第2日(6月23日) 9:30~11:30

自由研究Ⅱ-7

共北34講義室

司会 安藤輝次(関西大学)
藤本和久(慶應義塾大学)

- 9:30 手づくり「科学絵本」の読み聞かせによる教育的効果(4)
橋本美彦(中部大学)
- 9:55 小学生の歴史学習レディネスとジェンダーバイアス
星瑞希(東京大学大学院)
- 10:20 ジェンダーの観点によるデューイ実験学校の初等歴史科カリキュラム論の再解釈
中村仁志(愛知教育大学大学院・静岡大学大学院)
- 10:45 1920年代のウィネットカ・プランにおける児童研究の展開
-教育相談部の取り組みを中心に-
宮野尚(国立教育政策研究所特別研修員)

全体討議(11:10~11:30)

自由研究Ⅱ-8

共北35講義室

司会 小柳和喜雄(奈良教育大学)
樋口とみ子(京都教育大学)

- 9:30 個人と学校全体の学びを関連付けた Lesson Study の研究
-MBB, ECRS, SECI モデルの手法を応用して-
垣谷英秋(愛知教育大学教職大学院)
- 9:55 授業における学習内容の明示化
-「発言表」を使用する授業分析-
田代裕一(西南学院大学)
- 10:20 問題解決学習による学校改善の研究
-カルテ・座席表・抽出生を活用した人間形成-
太田幸宏(愛知教育大学)
- 10:45 効果的な授業デザインとカリキュラム改善における創造性向上
サポートーモンゴルにおける授業研究事例を例に-
水野正朗(東海学園大学)

全体討議(11:10~11:30)

第2日（6月23日）13:00～15:00

課題研究Ⅲ

教科横断型学習の具体像と可能性を検討する

共北 32 講義室

次期改訂学習指導要領においては「教科等の目標や内容を見渡し、特に学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のためには、教科等横断的な学習を充実する必要」があると記されている。しかし、多くの学習内容をこなさなくてはならない状況や、カリキュラムマネジメントとの関係から“どのようにトピックや時間をやりくりするか”という観点のみから教科横断的学習が検討される懸念もある。

教科横断型学習は、本来は、子どもの経験に重きを置き、トピックの全体性や関連性を大切にした学習であり、広い可能性を有している。また、近年 AI の導入等により知識自体の意味が問われ、教科の統合再編も問われる中で、創造性、相互協力、コミュニケーションという観点からも教科横断型学習が注目されている。

そのため、今回は、日本の教科横断型学習の系譜の検討、スウェーデンの“共生”に関する教科横断型カリキュラムの紹介、また、実際に子どものプロジェクトを中心としたカリキュラムを実施している日本の学校の実践事例から、教科横断型学習の具体像と可能性を検討する。

<司会>

的場正美(東海学園大学)
高橋亜希子(南山大学)

<発表者>

- ・日本のカリキュラム実践史における教科横断型学習
富士原紀絵(お茶の水女子大学)
- ・スウェーデンの教科横断型学習ー「共生」のカリキュラムを例としてー
戸野塚厚子(宮城学院女子大学)
- ・体験学習で学校を変える
ーきのくに子どもの村学園の「プロジェクト」のねらいと実際ー
堀真一郎(きのくに子どもの村学園)

<指定討論者>

澤田稔(上智大学)

第2日（6月23日）13:00～15:00

課題研究Ⅳ カリキュラムの「不易と流行」を語る
—学習指導要領とカリキュラム研究—

共北 26 講義室

本課題研究は、広報・若手育成委員会が担当している。本委員会の主たる役割は、学校現場に対するカリキュラムの意義や理解の広報と若手研究者育成である。本大会では、カリキュラムあるいはカリキュラム研究にかかわるキーワードを取り上げ、本学会のその分野・領域に関する先輩研究者が、その研究領域に対する思いや研究の姿勢、配慮すべき事柄などを経験や学術的知見を踏まえて語り、それを受けて、中堅・若手研究者が当該研究対象に関する自己のかかわり方や抱負等を述べ、協議を通して研究的な示唆を得るという企画を立てている。

学習指導要領本格実施前の今年、テーマとして「学習指導要領」を取り上げ、本学会及び本学会員が学習指導要領及びその改訂をどう捉えてどうかかわっていくべきなのかを共に考えたい。まず、主発表者として、教育課程行政や学習指導要領作成に研究者としての立場から長きにわたってかかわってきた安彦会員より、「カリキュラム研究を志した理由、問題意識、実践から理論を導き出す実証的な研究方法、理念を含む理論構築の心構え、自己の研究の中での学習指導要領改訂作業の位置付け」などについて経験を元に語られる。これを受けて、森会員により、「学習指導要領の原理的性格をめぐる諸課題の整理・検討と望ましい原理的性格の検討やその実現に向けた観点・方策等の提示」が試みられる。そして、緩利会員により「各学校・教師のクリエイティビティに期待するという立場から、カリキュラムづくりにおける制約のあり方やその妥当性」について課題提起がなされる。安彦会員は約 50 分、森会員と緩利会員には各 15 分の発表時間を設定している。

<発表者>

- ・私のカリキュラム研究と学習指導要領改訂への関わり方
安彦忠彦（神奈川大学）
- ・「コース・オブ・スタディ（Course of Study）」の観点からみたわが国の「学習指導要領」の原理的性格をめぐる諸課題
森久佳（大阪市立大学）
- ・カリキュラムづくりにおける「制約のなかのクリエイティビティ」
緩利誠（昭和女子大学）

<司会・コーディネーター>

- 村川雅弘（甲南女子大学）
- 田村知子（大阪教育大学）

第2日（6月23日）15:15～16:45

自主企画セッション I

変動する世界の大学入試ーヨーロッパを中心にー

共北 32 講義室

2020年度から大学入試が大きく変わろうとしている。しかし、見方を変えれば、日本の入試改革は、あくまでも、「大学」が「学力一斉筆記試験」によって「学生を選抜する」試験を踏襲し、その枠組みのなかでの方法のマイナーチェンジと見ることもできる。また、いわゆる「調査書」を重視する入試にはすでに多様な方法があるが、その問題性（高校での評価の妥当性など）や可能性はこれまでに十分には検討されずにある。

このラウンドテーブルで議論するテーマは、「後期中等教育修了資格試験」の方法を伝統的に採用してきた（旧西）ヨーロッパ諸国の「大学入試」の歴史、制度、改革である。日本とは異なる、「生徒」が「学力一斉筆記試験以外の方法」によって「大学を選択する」ヨーロッパの制度に学ぶことはたくさんある。しかしながらこれらの制度もまた、現在、改革の岐路に立っていることは実はあまり知られていない。

世界の入試制度がこのように改革を余儀なくされている要因の一つに、PISAが考えられる。PISAは世界の初等・中等教育における教育の方法や学力の定義を一新した。その影響が高大接続にあたる後期中等教育修了時にも及んでいることが本ラウンドテーブルで取り上げる各国で見られる。

どのような「入試」の方法であれば、高校までの学力を保障し、また高校からの学習や意欲・関心を大学での学修・研究にうまく接続することができるのだろうか。入試制度、学力、PISA、高大接続などをキーワードに以上のことを検討することが本企画の目的である。各国の入試制度が持つ特徴や問題を明らかにしながら、日本の「入試」方法とは異なるオルタナティブを模索してみたい。

<企画者>

伊藤実歩子（立教大学）

<司会>

伊藤実歩子（立教大学）

木村裕（滋賀県立大学）

<発表者>

- ・オランダの場合 奥村好美（兵庫教育大学）
- ・イタリアの場合 徳永俊太（京都教育大学）
- ・イギリスの場合 二宮衆一（和歌山大学）

*発表順は変わる場合があります

第2日（6月23日）15:15～16:45

自主企画セッションⅡ

教育における「エビデンス」を取り巻く論争点
—ジョン・ハッティの研究をどう読むか—

共北 26 講義室

「どのような教育が効果的か」という問いは、古くて新しい問いである。実践家である教師にとって、どのようなカリキュラムや教育方法を選択するかは、日々直面する切実な問いだ。一方、学校教育に対するアカウントビリティの要請が高まり、教育を取り巻く判断とそれに伴う説明において、その根拠を求める傾向が日増しに強くなっている。学校や教師、教育行政関係者が選択する／選択したカリキュラムや教育方法が効果的であるか否かを判断・説明するために「エビデンス」が求められている。

「どのような教育が効果的か」、「その根拠は何か」という問いに対して、私たちはどう向き合うべきなのだろうか。近年、邦訳も出版されて日本の教育界においても認知度が高まりつつあるジョン・ハッティ (John Hattie) 氏の研究は、この問いに対してひとつの立場を提示している。ハッティの研究では、学力に与えるさまざまな教育的介入（カリキュラム、教育方法等）に関する複数の系統的レビューを、標準偏差を単位とした平均値差（効果量 d ）を指標として統合（スーパーシンセシス）し、順位表として可視化している。この「教育効果の可視化」は、教育現場や政策決定場面に対して「わかりやすいエビデンス」として小さくない影響力をもち始めている。一方で、このようなハッティの研究が、筋違いな解釈や見当違いな判断に基づいて理解されている側面も見落とすことはできない。

そこで、本ラウンドテーブルでは、教育における「エビデンス」の問題において、ハッティの研究をどのように読み解くべきかについて検討する。

<企画者> 森本和寿（京都大学大学院、日本学術振興会特別研究員）

<発表者>

- ・ハッティのメタ分析の結果に〇〇はどう向き合うべきか
原田信之（名古屋市立大学）
- ・教育心理学から見た Visible learning の意義と課題
山森光陽（国立教育政策研究所）
- ・ハッティの研究成果と教育実践との関係を問う
森本和寿（京都大学大学院）、石田智敬（京都大学大学院）

<指定討論者> 松下佳代（京都大学） <司会> 徳島祐彌（兵庫教育大学）

啓林館

子どもたちの未来へ

身近にある不思議から、
自然・科学への関心を高め、
科学する心をはぐくみます。

21世紀の社会を築く子どもたちに
「豊かな感性」と「確かな学力」を。



— 知が啓く。 —
啓林館

本社 〒543-0052 大阪市天王寺区大道4丁目3番25号
東京支社 〒113-0023 東京都文京区向丘2丁目3番10号
北海道支社 〒060-0062 札幌市中央区南二条西9丁目1番2号サンケン札幌ビル1階
東海支社 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1丁目15番20号ie丸の内ビルディング1階
広島支社 〒732-0052 広島市東区光町1丁目7番11号 広島CDビル5階
九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院1丁目5番6号 ハイヒルズビル5階

電話(06)6779-1531
電話(03)3814-2151
電話(011)271-2022
電話(052)231-0125
電話(082)261-7246
電話(092)725-6677

<http://www.shinko-keirin.co.jp/>

最新刊
大学教育における高次の統合的な能力の評価
—量的vs質的、直接vs間接の二項対立を超えて—
齋藤有吾著
A5・上製・一八四頁・二八〇〇円

最新刊
ハーバード法理学アプローチ —高校生に論争問題を教える—
渡部竜也・溝口和宏・橋本康弘・三浦朋子・中原朋生訳
A5・並製・五〇四頁・三九〇〇円

最新刊
グローバルに問われる日本の大学教育成果
加藤真紀・喜始照宣著
A5・上製・二一六頁・二八〇〇円

最新刊
大学生白書 2018 —今の大学教育ではない—
—学生を変えられない—
溝上慎一著
A4・並製・一六〇頁・二八〇〇円

最新刊
大学におけるライティング支援
—どのように書く力を伸ばすか—
関西大学ライティングラボ・津田塾大学ライティングセンター編
A5・並製・二四〇頁・二四〇〇円

最新刊
幼児教育系学生のための日本語表現法
—保育実践力の基礎をつくる初年次教育—
大岡紀理子・久保田英助編 森下稔監修
A5・並製・一六八頁・一五〇〇円

最新刊
グローバル社会における日本の大学教育
—全国大学調査からみえてきた現状と課題—
河合塾編著
A5・並製・四七二頁・三八〇〇円

最新刊
大学教育の数学的リテラシー
水町龍一編著
A5・並製・三四四頁・三二〇〇円

最新刊
大学のカリキュラムマネジメント —理論と実際—
中留武昭著
A5・上製・一九六頁・三二〇〇円

最新刊
ストーリー中心型カリキュラムの理論と実践 —オンライン大学院の挑戦とその舞台裏—
根本淳子・鈴木克明編著
A5・並製・二五六頁・三四〇〇円

最新刊
大学の組織とガバナンス —高等教育研究論集第1巻—
羽田貴史著
A5・上製・三三六頁・三二〇〇円

最新刊
長期学外学修のデザインと実践
—大学生をアクティブにする—
澤邊潤・木村裕斗・松井克浩編著
A5・上製・三三六頁・三二〇〇円

最新刊
文部科学省の解剖
青木栄一編著
A5・上製・三二二頁・三二〇〇円

幹部職員に対する初となるサーベイ、文科省と官邸・他省庁・地方自治体との関係、庁舎内の部署配置・執務室内の座席配置分析といった行政学的分析を通じて、文部省/科技厅の統合後のガバナンスの行方等、文科省の組織構造からアプローチした初の本格的実証研究。

最新刊
いま、教育と教育学を問い直す
—教育哲学は何を究明し、何を展望するか—
森田尚人・松浦良充編著
A5・上製・三四四頁・三二〇〇円

最新刊
教育的関係の解釈学
坂越正樹監修 丸山恭司・山名淳編
A5・上製・二八〇頁・二八〇〇円

最新刊
文字と音声の比較教育文化史研究
添田晴雄著
A5・上製・四〇〇頁・四八〇〇円

最新刊
才能教育の国際比較
山内乾史編著
A5・上製・三四四頁・三二〇〇円

最新刊
学習とパーソナリティ —「あの子はおとなしいけど成績はいいんですよ!」をどう見るか—
溝上慎一著 「学びと成長の講話シリーズ」
四六・並製・二四八頁・一六〇〇円

最新刊
実践から考える金融教育の現在と未来
編集代表 大澤克美 松尾直博・東條憲二
A5・並製・二六四頁・二四〇〇円

最新刊
ネオリベラル期教育の思想と構造
—書き換えられた教育の原理—
福田誠治著
A5・上製・六六四頁・六二〇〇円

最新刊
空間と時間の教育史 —アメリカの学校建築と時間割からみる—
宮本健市郎著
A5・上製・五八四頁・四八〇〇円

最新刊
大正新教育の受容史
橋本美保編著
A5・上製・三三六頁・三二〇〇円

最新刊
大正新教育の思想 —生命の躍動—
橋本美保・田中智志編著
A5・上製・五八四頁・四八〇〇円

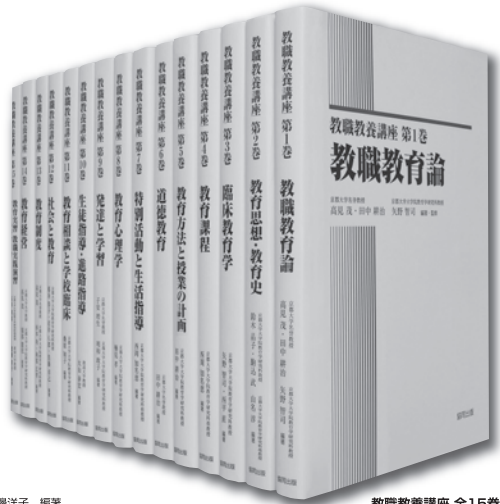
四半世紀前に刊行した『新・教職教養シリーズ』改訂の新企画

教職教養講座 全15巻

監修 京都大学特任教授 高見茂 京都大学名誉教授 田中耕治
 京都大学大学院教育学研究科 教授 矢野智司
 京都大学大学院教育学研究科長 教授 稲垣恭子

A5判 各巻 定価：本体2,200円+税 2巻のみ定価：本体2,500円+税

- 第1巻 教職教育論 京都大学特任教授 高見茂 / 京都大学名誉教授 田中耕治 / 教授 矢野智司 編著
- 第2巻 教育思想・教育史 教授 鈴木晶子 / 教授 駒込武 / 東京大学教授 山名淳 編著
- 第3巻 臨床教育学 教授 矢野智司 / 教授 西平直 編著
- 第4巻 教育課程 教授 西岡加名恵 編著
- 第5巻 教育方法と授業の計画 京都大学名誉教授 田中耕治 編著
- 第6巻 道德教育 京都大学名誉教授 田中耕治 編著
- 第7巻 特別活動と生活指導 教授 西岡加名恵 編著
- 第8巻 教育心理学 教授 梶見孝 編著
- 第9巻 発達と学習 京都大学名誉教授 子安増生 / 教授 明和政子 編著
- 第10巻 生徒指導・進路指導 放送大学教授 大山泰宏 編著
- 第11巻 教育相談と学校臨床 教授 桑原知子 編著
- 第12巻 社会と教育 教育学研究科長・教授 稲垣恭子 / 教授 若井八郎 / 教授 佐藤卓己 編著
- 第13巻 教育制度 京都大学特任教授 高見茂 / 教授 杉本均 / 教授 南部広孝 編著
- 第14巻 教育経営 京都大学特任教授 高見茂 / 准教授 阪部恵児 編著
- 第15巻 教育実習 教職実践演習 フィールドワーク 准教授 石井英典 / 新潟大学教授 遊遊洋子 編著



教職教養講座 全15巻



協同出版

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-5
 TEL 03 (3295) 1341 FAX 03 (3233) 0970

ホームページ <http://www.kyodo-s.jp>

教育学関係学術図書のご案内

価格は税別。

マクマリーのタイプ・スタディ論の形成と普及

藤本 和久著 12000円
 米国ヘルバルト主義運動の担い手の一人、マクマリーのタイプ・スタディ概念の使用文脈の変遷を明確化。カリキュラム論や教授理論そのものの質的転換を捉えた大著。

現代アメリカにおける構築主義歴史学習の原理と展開

寺尾 健夫著 13000円
 本書は、米国で主流の構築主義歴史学習の原理と実際を明示し、解釈と批判を駆使して主体的に歴史像を作り出すような歴史学習への変革を目指した。

社会形成科社会科論—批判主義社会科の継承と革新—

子どものシティズンシップ教育研究会著 2500円
 批判主義社会科論研究の第一人者である池野範男氏の研究を対象化し、批判的に検討。批判主義社会科論の更なる再構築に向けて、各執筆者が渾身を込めて論述。

科学技術社会の未来を共創する理科教育の研究

内田 隆著 6500円
 コンセンサス会議・シナリオワークショップを応用した教科横断的な理科授業を開発。理科教育内容領域を拡大し、総合学習・探究への発展を見据える実践的な研究書。

女子の理科学習を促進する授業構成に関する研究

稲田 結美著 9500円
 理科学習に消極的な女子中高生。その学習の実態と問題点を整理し、海外の先行研究を参考に、現状を打開するための授業構成を実践的に検証している。

情報教育の成立・展開期におけるカリキュラム評価

本村猛能・森山潤著 7500円
 初等中等教育の情報教育カリキュラム（成立・展開期）を20年以上の長期的な学習者の意識調査と国際比較を通して評価し、今後の方向性を体系的に考究した。

土壌リテラシーを育てる土壌教育の開発

福田 直著 9000円
 土壌リテラシーの概念を規定し、その育成に向けた土壌教育を開発・構築。教材開発やカリキュラム開発等を幼児から成人に至る幅広い発達段階から実証的に検討する。

初等社会科教育研究

中平一義・茨木智志・志村喬編著 1800円
 小学校社会科の目的・理念や歴史などの基礎から授業の構想・実践までを具体的に解説。実際の授業の様子が伝わるように工夫されている。

理科教育における化学工業教材の意義と変遷

郡司 賀透著 7500円
 本書は、自然科学のなかでも基礎と応用が密接に関連する化学を対象にして、戦後発行の高等学校教科書における工業教材の意義と変遷を明らかにしたものである。

関係論的アプローチによる体育学習の再検討

岡野 昇著 7000円
 多くの授業実践に基づき、体育学習における学習内容と単元構成原理と具体的な学びのデザインを示し、関係論的な体育学習構築のための理論と方法を解明した新著。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34
 TEL 03-3291-5729 FAX 03-3291-5757

風間書房

(URL) <https://www.kazamashobo.co.jp>
 メールアドレス pub@kazamashobo.co.jp

シリーズ—子どもの貧困

シリーズ編集代表 松本伊智朗

① **生まれ、育つ基盤**
子どもの貧困と家族・社会

松本伊智朗・湯澤直美〔編著〕

② **遊び・育ち・経験**
子どもの世界を守る

小西祐馬・川田学〔編著〕

③ **教える・学ぶ**
教育に何がでるか

佐々木宏・鳥山まどか〔編著〕

④ **大人になる・社会をつくる**
若者の貧困と学校・労働・家族

杉田真衣・谷口由希子〔編著〕

⑤ **支える・つながる**
地域・自治体・国の役割と社会保障

山野良一・湯澤直美〔編著〕

**子どもと
かかわる
すべての
人に**

子どもの貧困の
再発見から10年。

この10年間の

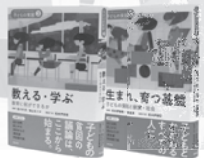
政策・実践・研究を

批判的に検討し、

子どもの貧困を議論する

枠組みを提供する。

新・スタンダードの誕生！



全5巻
A5判／並製／各2500円

批判的教育学事典

マイケル・W・アップル、ウェイン・アウ、ルイ・アルマンド・ガンデン 編
長尾彰夫、澤田稔 監修 ◎25000円

新自由主義的な教育改革と学校文化

大阪の改革に関する批判的教育研究
濱元伸彦、原田琢也 編著 ◎3800円

社会情動的スキル

学びに向かう力
経済協力開発機構 (OECD) 編著 ◎3600円
ベネッセ教育総合研究所 企画・制作 無藤隆、秋田喜代美 監訳

図表でみる教育

OECD インディケーター (2018年版)
経済協力開発機構 (OECD) 編著 矢倉美登里、稲田智子、大村有里、
坂本千佳子、立木勝、松尾恵子、三井理子、元村まゆ 訳 ◎8600円

2017小学校学習指導要領の読み方・使い方

2017中学校学習指導要領の読み方・使い方

「術」「学」で読み解く教科内容のポイント
大森直樹、中島彰弘 編著 ◎各2200円

こんなに違う! アジアの算数・数学教育

日本・ベトナム・インドネシア・ミャンマー・ネパールの教科書を比較する
田中義隆 著 ◎3400円



明石書店

〒101-0021 東京都千代田区外神田6-9-5
<http://www.akashi.co.jp/> *目録送呈 *価格税別

TEL.03-5818-1171 FAX.03-5818-1174

**成功事例に学ぶ
カリキュラム・マネジメント
の進め方**

最新刊!

生徒の
授業満足度
95%

英検準2級
取得率
85%

学力調査
正答率
90%



なぜ学力は飛躍的に向上したのか?
なぜ学校はそれを実現できたのか?

★3年で学力を飛躍的に伸ばすカリマネの秘訣!
★カリキュラム全体と各教科の授業づくりを詳細に解説!

[共著] 高橋正尚・小藤俊樹 A5判/224頁/定価(本体2,300円+税)

教育開発研究所

113-0033 東京都文京区本郷2-15-13 TEL:03-3815-7041

石村卓也・伊藤朋子・浅田昇平 著

社会に開かれたカリキュラム

◆A5並製264頁 2,000円

新学習指導要領に対応した教育課程論
教育課程をはじめとする学生や現役教員を対象とした、
教育課程論の基本を身に付けることができる一冊。



丹松美恵子・丹松美代志 著

教えるから学ぶへ

◆A5並製242頁 2,000円

協同的学びとの出会い
佐藤学氏（元日本教育学会会長）推薦。「協同的学び」を実践した
著者の具体的な事例をたっぷり収録した入門書。



小林和雄 著

真正の深い学びへの誘い

◆A5並製16頁 1,000円

「対話指導」と「振り返り指導」から始める授業づくり
教科の本質を踏まえた究極の授業づくりへのヒントを凝縮した一冊。

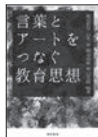


渡辺哲男・勢力尚雅・山名淳・柴山英樹 編著

言葉とアートをつなぐ教育思想

◆A5並製196頁 1,900円

「教育」の新たな世界を切り開く画期的な研究成果。
クレイ、君の名は、「原爆の絵」、中動憲、三木清彦を用いて、



伊藤良高 ほか編

改訂版 道徳教育のフロンティア

◆A5並製154頁 1,700円

新時代の道徳及び道徳教育について様々な観点からアプローチし、
取り急ぎ状況や課題、展望をリアルに、かつ、わかりやすく描き出す。



相馬伸一 著

しよつせつ教育原論202X

◆A5並製366頁 2,000円

一人の学生の視点をとって、教育の理念・歴史・思想を学ぶ、また、
新しい発想の教育学テキスト、教職課程プログラキリキラム完全対応。



西川真理子・橋本信子 ほか著

アカデミック・ライティングの基礎

◆B5並製144頁 1,700円

資料を活用して論理的な文章を書く
論理的な文章を書くための基礎づくりができるテキスト。



晃洋書房 京都市右京区西院北矢掛町七番地
TEL 075(312)0788 / FAX 075(312)7447
http://www.koyoshobo.co.jp

※表示価格は税別

第48回 教育展望セミナー

- 大会主題：これからの時代に向けた教育の改革と創造
—AIの時代を視野に入れた教師力—
- 日程：2019年8月5日(月)、6日(火)
- 【8月5日(月) 全体会】
 - ・教育講演：福岡伸一（青山学院大学教授）
 - ・パネルディスカッション：「AIやソサエティ5.0の時代を踏まえて学校はどう変わるべきか」
- 【8月6日(火) 分科会】
 - ・第1分科会（経営部会）
 - テーマ1：カリキュラム・マネジメント力を高める人材育成の在り方
 - テーマ2：カリキュラム・マネジメントを充実させる業務改善の在り方
 - ・第2分科会（小学校部会）
 - テーマ3：主体的な学びを深める個に応じた学習指導の工夫
 - テーマ4：集団での対話的な学びを深める学習指導の工夫
 - ・第3分科会（中学校部会）
 - テーマ5：集団での対話的な学びを深める学習指導の工夫
 - テーマ6：主体的な学びを深める個に応じた学習指導の工夫
- 会場：アルカディア市ヶ谷（私学会館）
（JR・地下鉄市ヶ谷駅下車、徒歩2分）
- 参加費
2日間：14,400円、1日のみ：9,300円（含資料代）
- お申し込み
ご参加には事前のお申し込みが必要です。ご希望の方は当研究所まで、開催案内をご請求ください。

月刊「教育展望」

毎月1日発行
A5判、448円＋税

- 2019年 特集
6月号 新学習指導要領における学習評価について
5月号 主体的・対話的で深い学びが授業を変える
4月号 カリキュラム・マネジメントが学校を変える
3月号 資質・能力を伸ばす評価活動
1・2月号 『教育展望』創刊700号を語る
- 2018年 特集
12月号 第47回教育展望セミナー 分科会報告
11月号 第47回教育展望セミナー 全体会報告
10月号 教育の情報化の動向と課題
9月号 巨大地震に備える防災教育の視点
7・8月号 改めて問う、深い学びとは
6月号 学校における働き方改革を探る
5月号 子どものいじめ・自殺問題と学校教育
4月号 新しい学校文化の創造
3月号 新学習指導要領から見える新しい授業像

「教育展望」臨時増刊

セミナー研究討議資料
A5判、2,381円＋税

- No.50（第47回教育展望セミナー）2018年7月発行、124ページ
資質・能力を育成する教育課程の編成と実施II
- No.49（第46回教育展望セミナー）2017年7月発行、124ページ
資質・能力を育成する教育課程の編成と実施
- No.48（第45回教育展望セミナー）2016年7月発行、124ページ
これからの時代に求められる資質・能力～学校教育の質を問う～

北大路書房

〒603-8303

京都市北区紫野十二坊町12-8

☎ 075-431-0361 FAX 075-431-9393

http://www.kitaohji.com

カリキュラム・マネジメントと授業の質保証

—各国の事例の比較から— 原田信之編著 A5・244頁・本体2700円+税 知識基盤社会の到来により、教え方や学び方の質をどう転換するかが問われている。日・米・英・独・仏・芬・香港・星の8ヶ国において、授業の質向上のための改革を紹介。各国事例から組織的・計画的な取り組みを抽出、分析することで、カリキュラム・マネジメントの内実に迫る。

メタ認知で〈学ぶ力〉を高める

—認知心理学が解き明かす効果的学習法— 三宮真智子著 A5・176頁・本体1800円+税 自律的な学習者を目指すために重要なキーワード「メタ認知」。第1部ではその概念について、第2部ではよりよい学習法や教授法における科学的根拠について、読み切り形式で平易に解説。単なるノウハウではなく、臨機応変に活用できる学習方略を提供する。

教育の方法と技術

—主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン— 稲垣 忠編著 A5・244頁・本体2200円+税 授業のつくり方をインストラクショナルデザインの考え方にのりい評説。学習指導案を実際に作成し、実践、振り返りを経験できるように各章を配列。アクティブラーニングや教職課程コアカリキュラムにも対応した高精度設計のテキスト。

学習科学ハンドブック第二版第1巻

—基礎/方法論— R. K. ソーヤー編 森 敏昭・秋田喜代美・大島 純・白水 始監訳 望月俊男・益川弘知編訳 B5・260頁・本体3700円+税 メタ認知、足場かけ等の基本的概念を取り上げ、デザイン研究、協調的分析、教育データマイニングといった方法論により主体的・対話的で深い学びの成る条件を明確にする。科学的最新知見を提供する全3巻。

学習科学ハンドブック 第二版 第1・2・3巻

R. K. ソーヤー編/森 敏昭・秋田喜代美他監訳 3600円+3800円+税

研修設計マニュアル

鈴木克明著 2700円+税

ようこそ、一人ひとりをかき教室へ

C. A. トムリンソン著/山崎敬人他訳 2400円+税

メタ認知

三宮真智子編著 3000円+税

授業設計マニュアル Ver.2

稲垣 忠・鈴木克明編著 2200円+税

教育研究のための質的研究法講座

関口靖広著 2800円+税

21世紀型スキル

P. グリフィン他編/三宅なほみ監訳/益川弘知他編訳 2700円+税

教材設計マニュアル

鈴木克明著 2200円+税

初めからの教育論文

野田敏孝著 1500円+税

社会科学と因果分析


ウェーバーの方法論から知の現在へ

佐藤俊樹 四六判 本体2800円

社会科学全体の創始者の一人、マックス・ウェーバーの因果分析の方法論が、統計的因果推論等、社会科学の最先端の方法にそのままつながっているとしたら？ 社会科学が「文科系/理科系」の二項図式では捉えられないものだとしたら？

社会科学と因果分析

好評3刷！
東京大学本郷、早稲田大学、慶應大学三田、生協人文書部門1位 (2019年2月)



手で見るいのち

ある不思議な授業の力

柳楽未来

目の見えない子どもたちが動物の骨を触って生物を学ぶという、筑波大学附属視覚特別支援学校で四〇年も続いているユニークな授業とは？「わかること」の本質にふれるルポ。毎日新聞デジタル版好評連載の書籍化。

四六判 本体1500円

重松清さん推薦!



[定価は表示価格+税]

岩波書店



〒101-8002 東京都千代田区一ツ橋2-5-5
http://www.iwanami.co.jp/

新刊

指導案つき!

マネジメントする 保育・教育カリキュラム

編著 池田幸代・田中 謙 体裁 B5判・192頁 定価 本体2,270円+税 ISBN 978-4-909378-02-6

2017年告示の幼稚園教育要領等で示された「カリキュラム・マネジメント」だけでなく、本書では、これまで“なんとなく”行っていた保育・教育の営みをマネジメントから捉え直し、より質の高い保育・教育サービスの提供を目指しています。

哲学する 学校経営

編著 伊藤潔志 体裁 B5判・208頁

定価 本体2,270円+税 ISBN 978-4-909378-05-7

「学校経営とは何か?」「組織とは何か?」「学校とは何か?」「教育とは何か?」といった問いかけから、あらためて学校経営について解説しています。また、読者自身が思考を深められる工夫も加え、新しい学びと今後の人生に活用できるようにしています。

指導案つき!

哲学する 保育原理

編著 伊藤潔志 体裁 B5判・224頁 定価 本体2,270円+税
ISBN 978-4-909378-00-2

指導案つき!

哲学する 教育原理

編著 伊藤潔志 体裁 B5判・190頁 定価 本体2,270円+税
ISBN 978-4-905493-26-6

図書出版・販売
Ky 教育情報出版

〒557-0055 大阪市西成区千本南 1-18-24
TEL 06-6658-8741 (代) / 06-6651-5012 (編集部)
FAX 06-6652-2928

info@kyoiku-joho.jp
http://www.kyoiku-joho.jp

教科と総合学習の カリキュラム設計

パフォーマンス評価をどう活かすか

西岡加名恵 (京都大学教育学研究科教授)

A5判 / 296頁 本体3,000円+税



“資質・能力” 育成のためのカリキュラムづくり・授業づくり・学習評価のあり方を提案

主な目次

- 序章 なぜ今、カリキュラム設計なのか
- 第1章 教育目標の設定
- 第2章 評価方法と評価規準(基準)の開発
- 第3章 指導過程の改善
- 第4章 マクロな設計
- 第5章 ポートフォリオ評価法の多様な展開
- 第6章 学校のカリキュラム・マネジメント

みんなで「深い学び」を 達成する授業

形成的アセスメントで子どもが
自ら学びを把握し改善する

安藤輝次

A5判216頁●本体2,700円+税

スタンダード準拠評価

「思考力・判断力」の発達に基づく
評価基準

鈴木秀幸

A5判240頁●本体3,400円+税

教育の効果 Visible Learning

メタ分析による学力に影響を
与える要因の効果の可視化

ジョン・ハッティ 著

山森光陽 監訳

A5判424頁●本体3,700円+税

〒112-0012 東京都文京区大塚1-4-15
http://www.toshobunka.co.jp/

図書文化

TEL 03-3943-2511 FAX 03-3943-2519
ブックライナーで注文可 ☎0120-39-8899

〔編集復刻版〕水原克敏編・解題

戦後改革期

文部省実験学校資料集成

〔第一期〕全9巻・体裁ⅡA4判・上製・総3、994頁
全3回配本 揃定価Ⅱ225、000円＋税

戦後改革期における文部省の動向が分かる資料を含む、東京・千葉・長野・奈良の各高等師範／大学附属小学校（一部中学校・高等学校）が報告した資料を復刻。

〔第二期〕全6巻・体裁ⅡA4判・上製・総2、504頁
全2回配本 揃定価Ⅱ150、000円＋税

初等教育実験学校研究資料第1集から第25集（昭和27年～36年発行）、ならびに昭和28年度・29年度研究発表要綱を収録。経験主義教育から系統主義教育への転換を示す。

〔第三期〕全3巻・体裁ⅡA4判・上製・総1、228頁
揃定価Ⅱ75、000円＋税

初等教育実験学校報告書1から12（昭和36年～40年発行）を収録。特設道徳・特別教育活動による人間形成と学習指導の「能率化・効率化」を重視する方針を示す重要資料を復刻。

〔編集復刻版〕

戦後新教育・「実力の検討」実践資料集

全4巻・体裁ⅡB5判・上製・総2、836頁

推薦Ⅱ影山清四郎・梶山雅史
揃定価Ⅱ98、000円＋税

社会科の創設・推進者の一人であった石山脩平をはじめ多数の研究者が関わり、全国から注目を集めた神奈川県足柄上郡福沢小学校の「福沢プラン」に関する資料を収集復刻。

不二出版

〒112-0005 東京都文京区水道 2-10-10
TEL.03-5981-6704 FAX.03-5981-6705
URL <http://www.fujishuppan.co.jp>

各回分売可
内容見本・目録送付
いたします。

大好評！ シリーズ累計 **11万部** 突破！

スクールリーダーのための12のメソッド

学校教育・実践ライブラリ [全12巻]

A4判、本文100頁 ぎょうせい／編

2019年

4月
発刊開始

1年でわが校を次代の学校へとつくりかえる わたしたちの最新メソッド。

学校現場の最重要課題を毎月深く掘り下げます！ 〈各月特集テーマ〉

- 4月配本 1 学校の教育目標を考えてみよう～学校目標から学級目標まで～
- 5月配本 2 指導と評価～移行期における各教科等の取組課題～
- 6月配本 3 これからの通知表の作り方・書き方
- 7月配本 4 働き方で学校を変える～やりがいをつくる職場づくり～
- 8月配本 5 校内研修を変えよう
- 9月配本 6 先進事例にみるこれからの授業づくり～単元づくりから指導案づくりまで～

- 10月配本 7 思考ツールの生かし方・取組み方～「主体的・対話的で深い学び」を「アクティブ」にする方法～
- 11月配本 8 気になる子供への指導と支援～特別支援教育のこれから～
- 12月配本 9 特別活動のアクティブ・ラーニング
- 1月配本 10 総合的な学習のこれからを考える
- 2月配本 11 英語・道徳の総子エック～全面实施の備えは万全か～
- 3月配本 12 新課程の学校経営計画はこうつくる

全国の先進事例で
悩みを解決！

※各号特集テーマは
変更する場合があります。

2019年4月から
2020年3月まで
毎月発刊

セット定価(本体16,200円＋税)
各巻定価(本体 1,350円＋税)

セット購入特価(本体14,400円＋税)

※2019年9月30日までにセットご購入の場合に限ります。



株式会社 **ぎょうせい**

〒136-8575 東京都江東区新木場1-18-11

フリーコール

TEL:0120-953-431 [平日9～17時] FAX:0120-953-495

<https://shop.gyosei.jp>

ぎょうせいオンラインショップ 検索

戦後日本教育方法論史 上下 田中耕治編著

〔上巻〕カリキュラムと授業をめぐる理論的系譜
〔下巻〕各教科・領域等における理論と実践 各3500円

よくわかる教育課程〔第2版〕

田中耕治編 2600円

教育課程を学ぶ

山田恵吾／藤田祐介／貝塚茂樹／関根明伸著 2400円

びわ湖のほとりで35年続くすごい授業

山田瑛治／滋賀大学教育学部附属中学校著
●滋賀大附属中学校が実践してきた主体的・対話的で深い学び 2200円

吉田武男監修

M I N E R V A はじめて学ぶ教職

既刊／B5判美装カバー／各2200円

① 教育学原論

滝沢和彦編著

⑩ 教育課程

根津朋美編著

② 教職論

吉田武男編著

⑪ 教育の方法と技術

樋口直宏編著

原清治／春日井敏之／篠原正典／森田真樹監修
新しい教職教育講座 教職教育編 既刊／A5判美装カバー／各2000円

② 教職論

久保富三夫／砂田信夫編著

⑩ 教育の方法と技術

篠原正典／荒木寿友編著

⑥ 教育課程・教育評価

細尾萌子／田中耕治編著

汐見稔幸／奈須正裕監修
アクティベート教育学 既刊／A5判美装カバー／各2000円

② 現代の教師論

佐久間亜紀／佐伯胖編著

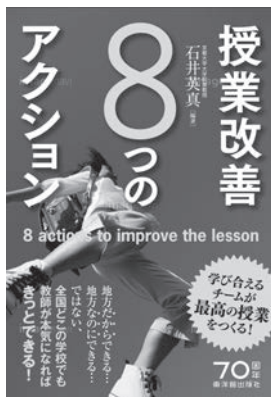
ミネルヴァ書房

〒607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町1 *表示価格税別 目録呈
TEL 075-581-0296 FAX 075-581-0589 www.minervashobo.co.jp/

地方だからできる…地方なのにできる…ではない！

全国どこの学校でも、教師が本気になれば必ずできる「授業改善」のすべて

授業改善 8つのアクション



石井英真 [編]

四六判／240頁／1850円＋税

授業が変われば、これほど子供が変わるのか。
子供が変われば、こんなにも授業がおもしろくなるのか。
授業がおもしろくなれば、これほど教師みんなが元気になるのか。
学び合う子供の姿は、学び合う教師の姿の生き写し。
私たち教師が学び合えるチームになれば、子供たち自身の学びは劇的に変わる！

学校の文化・規模、地域特性など、学校によって教育環境はさまざまです。しかし、全国どこの学校であっても、本気になればきっとできる授業改善のプロセスというものがあります。その姿を明らかにすることが、本書の最大のミッションです。

東洋館出版社

〒113-0021 東京都文京区本駒込 5-16-7 URL: http://http://www.toyokan.co.jp/
Tel.03-3823-9206 Fax.03-3823-9208

評価が変わる、授業を変える

資質・能力を育てるカリキュラム・マネジメントとアセスメントとしての評価

高木展郎 [著]

定価(本体 2,000円+税) A5判 224ページ ISBN 978-4-36181-9



新学習指導要領下で求められる資質・能力の育成に向けた評価のあり方について、背景にある考え方や、カリキュラム・マネジメントに基づいて授業を変えていくための具体的な方法などをわかりやすく解説する。

目次

第I章 これからの時代が求める評価

1. 「評価」ということの意味
2. 学習評価によって子どもたちの資質・能力を伸ばす
3. 入学者選抜のために行う評価

第II章 新学習指導要領改訂における評価

1. 新学習指導要領における学習評価
2. 「目標に準拠した評価」は、なぜ必要か
3. 観点別学習状況の評価の具体
4. これからの学習評価の取組
5. 指導と評価の一体化の意味
6. さまざまな評価方法
7. 評価をどのように行うか
8. 「特別の教科 道徳」の評価

第III章 カリキュラム・マネジメント

1. カリキュラム・マネジメント
2. 学校教育におけるカリキュラム・マネジメント
3. カリキュラム・マネジメントと学校評価
4. カリキュラムの作成

第IV章 評価によって子どもを育てる

1. 評価に関する考え方の転換
2. 評価によって資質・能力を育成する
3. 評価の具体
4. 主観的な学習評価のよさを見直す

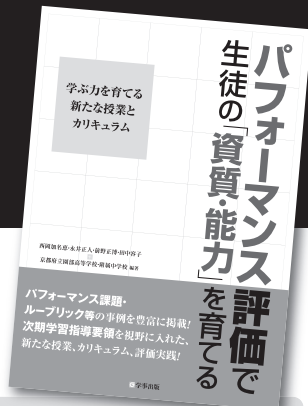
三省堂

〒101-8371 東京都千代田区神田三崎町2-22-14 ☎03(3230)9411 (編集)・9412 (営業)
<https://www.sanseido.co.jp/>

パフォーマンス評価で 生徒の「資質・能力」を育てる 学ぶ力を育てる新たな授業とカリキュラム

西岡加名恵・永井正人・前野正博・田中容子 + 京都府立園部高等学校・附属中学校 編著

次期学習指導要領で求められるのは生徒の「資質・能力」の育成。それを達成するための新たな授業やカリキュラム評価実践を紹介。パフォーマンス課題・ルーブリック等の豊富な事例が、実践の参考になります！



本書の目次(目次9p)

- 第1章 「資質・能力」を育てるカリキュラムづくり—パフォーマンス評価の進め方
- 第2章 研修旅行を学びの場に—「課題研究プロジェクト」の取り組み
- 第3章 自己表現への意欲が学ぶ力に—英語科の取り組み
- 第4章 生徒が主体的に研究に取り組むために—理科の取り組み
- 第5章 広く世界を見渡ししながら、自己理解に努める—「京都国際科」の取り組み

■B5判・横組み・128ページ ■定価(2,000円+税) ■ISBN 978-4-7619-2316-7 高等学校管理職 対象

ホームページからもご注文できます <http://www.gakuji.co.jp>

学事出版 千代田区外神田2-2-3 TEL03-3253-4626 FAX 03-120-655-514

2019年4月新刊

教育学をつかむ 改訂版 (テキストブック形式) 二〇〇〇円
木村 元・小玉重夫・船橋一男著 学習指導要領改訂、コアカリキュラム、教員養成改革、大学入試改革、アクティブラーニングなど、教育学をめぐる新たな動向をふまえた10年ぶりの改訂。



はじめての子ども教育原理 一八〇〇円
福元真由美編



問いからはじめる教育学 一八〇〇円
勝野正章・庄井良信著 初学者の学びをサポートするツール(Q&A形式)を豊富に盛り込み、考える愉しみを味わいながら学べるテキスト。



教育をよみとく 一五〇〇円
田中耕治・石井英真・八田幸恵・本所 恵・西岡加名恵著



ベストをつくす教育実習 二〇〇〇円
筒井美紀・遠藤野ゆり編 強みを活かして実力を伸ばす教育実習に必要な知識を身につけられる、実践的テキスト。



やさしい教育原理 第3版 一九〇〇円
田嶋 一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二著



新しい時代の教育課程 第4版 二〇〇〇円
田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵著



新しい時代の教育方法 改訂版 一八〇〇円
田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之著



新しい時代の生活指導 一八〇〇円
山本敏郎・藤井啓之・高橋英児・福田敦志著



新しい教育評価入門 二〇〇〇円
西岡加名恵・石井英真・田中耕治編 人を育てる評価のために

新刊

教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価
「見方・考え方をとつ育てるか」西岡加名恵 石井英真 編著 B5判/152頁/2,200円
新学習指導要領のキーワード「深い学び」を表現し、資質・能力を育てるためにはどうしたらよいか。教科の「見方・考え方」を働かせて「深い学び」を実現するためのパフォーマンス課題とその評価のあり方を提案する。

資質能力を育てるカリキュラム・マネジメント
読解力を基盤とする教科の学習とパフォーマンス評価の実践
田中耕治・田園子 監修 京都府立高倉小学校研究同人 京都大学大学院教育学研究科教育方法研究室 著 B5判/126頁/2,200円

教室における読みのカリキュラム設計
八田幸恵 著 A5判/148頁/2,500円

理解をもたらすカリキュラム設計
「逆向き設計」の理論と方法
G・ウキエズ/J・マクタイ 著 西岡加名恵 訳 B5判/456頁/6,000円

教育評価研究の回顧と展望
田中耕治 著 A5判/104頁/本体1,400円

小学校発 アクティブラーニングを超える授業
質の高い学びのウイジョン「教科する」授業
石井英真 編著 B5判/192頁/本体2,400円

教師の資質・能力を高める!
アクティブラーニングを超えていく「研究する」教師へ
教師が学び合う「実践研究」の方法
石井英真 編著 A5判/200頁/本体2,000円

パフォーマンス評価——子どもの思考と表現を評価する
松下佳代 著 A5判/72頁/600円

パフォーマンス評価にどう取り組むか——中学校社会科のカリキュラム授業づくり
三藤あさみ・西岡加名恵 著 A5判/64頁/700円

カリキュラムマネジメント——学力向上のアクションプラン
田村知子 著 A5判/56頁/600円

今求められる学力と学びとは——「リベラリティー」ベースのカリキュラムの光と影
石井英真 著 A5判/80頁/900円

☆価格は本体価格です。税別になっています。

未来の教育を創る教職教養指針 6
山崎準二・高野和子 編集代表

カリキュラム・ マネジメントと教職課程

金馬国晴 編著

「カリキュラム・マネジメント」を視野に入れつつ、子ども・教員・学校・教育行政等の側面から教育課程の概念や編成の方法などを多面的多角的に捉える。

本体
2000円
●192頁



新版 教育課程・方法論

—コンピテンシーを育てる学びのデザイン—

松尾知明 著

未来を拓く資質・能力を育むためのカリキュラム編成、学びのデザイン、カリキュラム・マネジメントとは。学びのイノベーションについて追究した新版。

本体
2000円
●184頁



教師のための教育学シリーズ

教師のための教育学シリーズ編集委員会 監

⑥ 教育課程論 第二版

山田雅彦 編著

●本体2100円 208頁

⑨ 教育方法とカリキュラム・マネジメント

高橋純 編著 近刊

●予価 本体2100円 200頁

「ESDでひらく未来」シリーズ

教育の課程と方法 —持続可能で包摂的な未来のために

鈴木敏正・降旗信一 編著

●本体2300円 240頁

子どもの生活概念の再構築を促す

カリキュラム開発論 —技術教育研究

大谷良光 著

●本体2500円 248頁

現代カリキュラム研究 第二版

—学校におけるカリキュラム開発の課題と方法

山口満 編著

●本体3000円 376頁

教師教育テキストシリーズ 9

教育課程 第二版

山崎準二 編著

●本体1900円 200頁

J.ロックランに学ぶ

教師教育とセルフスタディ

ジョン ロックラン 監修/原著

●本体 3500円 250頁

武田信子 監修/解説 小田郁予・齋藤真宏・佐々木弘記 編

教師教育研究ハンドブック

日本教師教育学会 編

●本体6000円 432頁

女性の視点でつくる社会科授業

升野伸子・國分麻里・金玗辰 編著 ●本体1800円 112頁

学生と教師のための

現代教職論とアカデミックフリーダム

臼井嘉一 編著

●本体2300円 208頁

〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-6-1
<http://www.gakubunsha.com>

学文社

Tel 03-3715-1501(代) Fax 03-3715-2012
E-mail: eigyo@gakubunsha.com

祝 第30回記念大会

現代カリキュラム研究の 動向と展望

日本カリキュラム学会 編

日本カリキュラム学会の30周年記念出版。
カリキュラム理論の展望、カリキュラム実践の課題、
カリキュラム研究の方法について幅広く取り上げて論究。



A5判/420ページ 定価:本体4,600円+税

主な内容

■第I部 カリキュラム理論の展望

- 第1章 カリキュラムとは何か
- 第2章 カリキュラムの歴史
- 第3章 カリキュラム編成の基本問題
- 第4章 学力とカリキュラム
- 第5章 教科とカリキュラム
- 第6章 道徳教育とカリキュラム
- 第7章 総合的な学習とカリキュラム
- 第8章 特別活動とカリキュラム
- 第9章 生徒指導・生活指導とカリキュラム
- 第10章 インクルーシブ教育とカリキュラム
- 第11章 幼児教育とカリキュラム
- 第12章 教育課程経営とカリキュラム・マネジメント
- 第13章 カリキュラムの計画・実施・評価
- 第14章 カリキュラムの今日的課題

■第II部 カリキュラム実践の課題

- 第1章 わが国における学習指導要領の変遷
- 第2章 小学校におけるカリキュラム
- 第3章 中学校におけるカリキュラム
- 第4章 高等学校におけるカリキュラム
- 第5章 大学におけるカリキュラム
- 第6章 生涯学習とカリキュラム
- 第7章 授業研究とカリキュラム
- 第8章 学校を基礎としたカリキュラム開発
- 第9章 研究開発学校とカリキュラム開発
- 第10章 教科書とカリキュラム研究の課題
- 第11章 教師教育とカリキュラム
- 第12章 教育課程行政とカリキュラム
- 第13章 学習評価とカリキュラム
- 第14章 海外のカリキュラム実践からの示唆

■第III部 カリキュラム研究の方法

- 第1章 カリキュラムの哲学的研究
- 第2章 カリキュラムの歴史的研究
- 第3章 カリキュラムの教育方法学的研究
- 第4章 カリキュラムの社会学的研究
- 第5章 カリキュラムの教育工学的研究
- 第6章 カリキュラムの心理学的研究
- 第7章 カリキュラムの経営学的研究
- 第8章 カリキュラムの行政学的研究
- 第9章 カリキュラムの国際比較研究
- 第10章 カリキュラムの批判的研究
- 第11章 カリキュラム研究の新しい動向